



NGOの支援先の孤児院。
この孤児院の玄関に捨てられた
赤ん坊も少なくないという。

り、よっぽどの正当な理由が無ければ国外に出ることが許されません。彼らには、選択肢が、ないのです。

私はこのような状況を、不公平だと考えます。

ホストファミリーにラップトップに入っていた日本の写真や外国に行ったときの写真を見せた時、彼らは本当に嬉しそうに、そして興奮して写真を楽しんでくれました。しかし、写真を見せ終わると、彼らはふと我に返り、「アフリカには何も無い。私達は何も無い。」と寂しそうに、恥ずかしそうに、そして冷笑的に、そう言っていました。私はあの時に味わった、彼らとの決定的な距離感が本当に耐えられませんでした。彼ら何か悪いことをしたから、選択肢が無い環境で生きなければならないのでしょうか。私が何かいいことをしたから日本人として生まれ、恩恵を享受しているのでしょうか。答えはもちろん、否です。たまたま生まれた場所が違っただけです。

4、将来にむけて

— 選択肢の無い、もしくは限られている人々に
 選択肢を供給する —

会社に勤めている身として、私は、「選択肢の無い、もしくは限られている人々に選択肢を供給する」ということを、長期的な目標の一つとしたいと思います。具体的には、ビジネスの視点から現地で雇用を創出することかもしれませんし、よりよい製品を彼らに供給することかもしれません。金融的側面から彼らの起業を支援することかもしれません。

いずれにしても、今回カメルーンを見て思った、選択肢を持ちたくても持てない人々が信じられないほど多いという問題を、彼らに選択肢を与えることで改善していきたいと考えています。その上でそれを選択するも選択しないも彼らの自由ですが、大事なのは、この「選択をする自由がある」ということだと思います。ノーベル経済学賞を受賞したアマルティア・センが『自由と経済開発』の中で、「経済開発の本源的目的」は「人々の実質的自由の拡大」であるとの考え方を示しています。私がその一端を担えるのであれば、こんなに素晴らしいことはありません。

5、おわりに

— 原点の原点は、「なぜ、なぜ」と論理的思考

松本先生をはじめとした、早稲田大学のオープン講座 Academic Skills for Study Abroad でお世話になった先生方には大変感謝致しております。私の世界、可能性を広げてくれた原点にあるのが留学生活ですが、その留学生生活を成功に導いて下さった原点が、留学前のこの講座であったからです。

「常になぜ、なぜを問い続けなさい。」この言葉と授業で習った論理的思考—日本の学校ではなかなか身につけられないもの—が、留学の意味を深く掘り下げ、そして「挑戦する姿勢の大切さ」という一つの答えを導き出してくれました。その「挑戦する姿勢の大切さ」を意識した結果、就職先を商社という世界を相手にする職業にすることが出来ましたし、カメルーンという日本とは正反対の世界を実際に見て感じる事が出来ました。確実に、私の世界・可能性は広がっていると思います。

社会人生活はまだ始まったばかりですが、これからも常に大きな目標を持ち、それに向かって常に自分に「挑戦」していきたいと思っています。



筆者のsend off partyにて
人々が非常に暖かいだけに、
「不公平さ」に心が痛む。

服部 裕也 (はっとり ゆうや)

California Polytechnic State University, San Luis Obispo 校に
2005年9月から9ヶ月間、留学。2007年9月早稲田大学政
治経済学部卒業。今年4月から、日本の商社に就職。



留学生OBの服部君の留学後の体験と就職の報告です。

留学体験を通して身につけた積極性をフルに活用して、アフリカに出かけて様々な体験をしています。そして、それらの体験が、多くの留学生に見られるような単なる思い出に終わるのではなく、彼が大学で学んできた多くの知識と結びつけている姿勢が、高く評価できます。服部君の「真摯に物事に取り組む」姿勢の現れです。

日本の学校では意識的に指導されることのない、アメリカの現地校の「考えるトレーニング」を提供している早稲田大学の私のクラスから、服部君のような社会人が育っていくのは、教師冥利に尽きます。

そして、現地校でお子さんが身につけている「宝」自体とその意義を、保護者の皆様ご理解し、育ててあげて欲しいと。切に願います。